

## 第5章 関連団体と地域活動



## 第1節 関連団体

### 関連病院

—開学30周年にあたって—

関連病院長懇談会会長  
高岡市民病院院長 藤田 秀春

このたびは、開学30周年をお迎えになり、まことにおめでとうございます。心からお祝い申し上げますとともに、多数の人材の育成、医学教育、地域医療のため、永年にわたって努力されてきた先人、関係者の方々に対してあらためて敬意を表するものであります。

ここ10年の関連病院の数と派遣医師数を見ますと、平成7年度は県内公的病院21（医師数141）、民間病院26（医師数51）、県外公的病院43（医師数105）、民間病院28（医師数44）であったものが、平成17年では県内公的病院32（医師数238）、民間病院47（医師数82）、県外公的病院42（医師数112）、民間病院42（医師数73）となっており、特に県内公的、民間病院への派遣医師数の増加が著しい。このことは県内医療の充実に果たしている富山医科薬科大学の役割の大きさを表しているものと考えられ、今後も関連病院と大学病院の良好な共同関係を維持していくことの重要性を認識させられます。

大学病院と関連病院はいわゆる車の両輪の関係にあり、いずれが欠けても相互の発展は望めません。大学病院には更なる優秀な人材の育成を、また関連病院では派遣された医師に十分な活躍の場を提供して地域の医療に貢献してゆくことを望みたいと思います。

ところで、今年2年目を迎えた医師の新臨床研修の影響で、地域病院への派遣医師数の減少、ひいては医師剥がしなる言葉さえ聴かれるほどの医師不足が大きな社会問題となっています。ことに、地方都市での医師不足は深刻であり、自治体病院協議会ではこのままでは地域医療が崩壊するとして行政的な手段を講じるように要請しているところです。また、産科、小児科、

外科、麻酔科などの特定診療科を希望する医師の極端な減少も将来に対する大きな不安要因であり、こうした状態の打開策をどのように考えてゆくかという問題も、医育機関としての大学病院の喫緊の課題と思われます。

そうした状況下で、今我々が最も関心を寄せているのは新臨床研修2年間で修了した医師たちの動向です。現在都会に集中しているこれらの研修医が、今後どのような道に進むのか。優秀で評価の高い研修病院といえども、現在研修している全ての研修医を3年目以降も採用することは不可能です。果たして大学医局への回帰は有りうるのか。もし、いわゆる入局者が激減するような事態になれば、これからの地域医療のみならず、医学、医療の発展にも大きな支障をきたすことは明白です。研修医の大学離れの理由は何だったのでしょうか。従来からの大学は、診療スタッフの不足、低待遇、組織的な教育・研究体制の整備不足、過重労働、前時代的な医局運営など多くの構造的な問題があったと思われませんが、それらが今一気に表面化したといえるのではないのでしょうか。こうした問題に適切に対応しなければ若手医師への求心力がさらに低下し、ひいてはわが国の医学・医療レベルの低下を招くこととなります。しかし、これまで医師の専門的教育、高度医療の開発などに大学病院あるいは医局の果たして来た役割は極めて大きなものがあります。新臨床研修を終わって新しい価値観を持った新人医師にとって、魅力的な医局とは何か、魅力的な大学病院とは何か、これまでの古い考えから脱却してさらに検討してゆく必要があると思います。

本年10月から、新富山大学が誕生します。これまでとは違った組織運営が求められるこの機会に更なる発展が望めるよう、叡知を集めて努力してゆきたいものです。

## しらゆり会

理事長 柳田 友道

富山医科薬科大学しらゆり会は富山県における篤志献体登録者の団体であり、篤志解剖全国連合会に所属して献体運動を実施している。その生い立ちについては、わが国における篤志献体運動黎明期の展望も含めて、富山医科薬科大学『開学十周年記念誌』にしらゆり会元会長の中井精一氏が詳しく述べられているので、ここでははじめに北陸地区における献体運動の発展経過についての概要を述べることにする。

金沢大学医学部解剖学教室山田致知（むねさと）教授は、篤志献体による解剖学実習が医学学生の系統解剖学に関する医学的並びに倫理的教育に欠かせないことを強く認識され、本事業の立ち上げに尽力されていたところ、これを知った富山県善意銀行理事長中井精一氏が山田教授の意向に全面的に賛同され、両氏が相協力して昭和44年、「しらゆり会」を設立し、初代理事長に中井氏が就任された。

昭和50年、富山医科薬科大学の開学に伴い、医学部では解剖学実習が実施されることとなったので、大学当局は中井氏の協力を得て、昭和52年、「しらゆり会富山医科薬科大学支部」を設置し、初代支部長に佐々学学長が就任した。さらに福井医科大学の新設に伴い、昭和56年には「しらゆり会福井医科大学支部」が設置され、北陸地区では既存の金沢大学と併せて、献体運動の地盤が確立されることとなった。

昭和57年山田教授の金沢大学定年退職を機会に、山田氏がしらゆり会理事長に、中井氏は同会長に就任され、その後本会は着実に発展した。しかし残念ながら山田理事長が平成6年に永眠されたので、翌年金沢大学関係者の登谷栄作氏が理事長に就任した。

平成8年頃、北陸地区の献体登録会員数は5,000人を超えるに至ったので、しらゆり会の効率的運営を図るために各支部の分離独立案が浮上し、その方向で検討されていた。そのよう

な折、平成8年、本会大黒柱の中井会長が山田氏の後を追うように他界されたことは誠に残念であった。その翌年計画どおり、しらゆり会は解散して、富山、福井の各支部は独立することとなり、北陸3県の3大学に、それぞれの大学名を冠したしらゆり会が発足することとなったのである。こうして発足した「富山医科薬科大学しらゆり会」理事長には柳田友道が就任し、現在に至っている。

本学しらゆり会は本学事務局研究協力課の協力の下に事業を展開しており、登録会員数はここ数年間、約1,250名を前後しながら定常状態にあり、そのうち年間約40名から50名前後の方々が亡くなられ、献体されるという状況が続いていて、解剖学実習は何ら支障なく実施されている。

本会会員は日常生活において健康で楽しく生き抜くことをモットーとしており、秋期に開催される本学の慰霊祭に合わせて開催される総会では、解剖学実習に参加した学生諸君の話を聞いたり、献体運動をより深く理解するために、会員相互の活発な意見交換をしたり、さらに医学部教官を招いて健康増進や病気などの講話をして頂き、会員の参考に供している。また機関誌「しらゆり富山」はあまねく会員に読まれている。

平成17年3月には本学しらゆり会として最大のイベントであった第35回篤志解剖全国連合会総会が本学医学部大谷修教授のご尽力により開催された。この連合会での重要議題は、大谷教授が日本解剖学会で委員長として検討されてきた「コメディカルの解剖学実習教育」の問題であった。問題として指摘された点は、コメディカル教育機関の本件への取り組み方は様々だが、概して基礎となる解剖学教育に不備が感じられ、篤志献体解剖実習実施についての熱意が不十分で、献体提供者側の気持ちとしては、倫理面で何となく不信感が払いきれないなどであって、今後更に検討すべきことが話し合われた。

## 医学部後援会

—30周年を迎えたことで—

医学部後援会長 伏木 弘

開学30周年記念、誠におめでとうございます。心からお慶び申し上げます。30周年を迎えたことで、現在医学部の後援会長をしております私に、記念誌への原稿依頼がありました。

最近の医学教育・医療界のトピックスは、今年からはじめて医学科にCBT（コンピューターを利用した試験）が採用され、臨床実習が受講できるかどうかを判定されることになりました。また、新規の研修医制度（大学卒業後2年間の臨床研修システム）で研修なされた先生たちが誕生し、大学の附属病院や公的・私的病院などに就職され診療を開始されました。医療システムの面では世界的にすぐれた日本の医療制度（GDP: Gross Domestic Product に占める社会保障への税金分担が少ないので優れている）の大幅な改革がなされようとしています。

私は、本学の第2回卒業生であり、30年もすると私の二世も本学の学生になっておりました。私が入学した頃はまだ附属病院もなく、工事現場に講義棟と体育館、グラウンド、野球場、プールが完成したばかりで広々としておりました。今では、当学部も最近順番に改築されている旧大学の医学部に比して、より風格がでてきています。また、本年10月には富山医科薬科大学から富山大学へと統合され、総合大学の仲間入りを果たします。今後の発展を期待いたします。

ここに発足された医学部後援会は、今年で16年目を迎え運営もスムーズに運んでおります。これも学生課の宮村氏のおかげであります。本後援会の使命は、当学の学生さんに勉学ならびに課外活動、さらには健康管理に関して支援する会であり、主に在学生の父兄から会費を集めて成り立っております。この会費は、運営費、事業費（予防接種、課外活動、大学祭、献体活動、図書購入、運動会、講演会）、積み立て（遭難などの）に使用されています。

学生諸君には、これらの諸問題にも敏感でありながら、勉学、クラブ活動そして学生生活を満喫できるよう、これからも後援会の皆様のご協力よろしく願いたします。

## 薬学部学生後援会

薬学部学生後援会長 古澤 隆

『富山医科薬科大学開学三十周年記念誌』の発刊を心からお慶び申し上げます。

本薬学部学生後援会は平成10年2月に設立されました。学生後援会を設立するきっかけは、当時、中込和哉先生（臨床分析学講座助教授）と小泉徹薬学部長が中心となり、教授会に提案し講師以上の教官34人の拠金で96万円の資金を集め、緊急援助資金の貸与事業をスタートさせたことによります。設立前の平成9年9月8日に「薬学部学生諸君へ緊急奨学援助のご案内」という掲示が貼り出されました。そして同年9月28日の新聞記事にニュースとして紹介されています。「学生の苦しい懐、緊急支援。富山医薬大の教授会ポケットマネーで融資基金。一回5万円の無利子貸与」という見出しで、記事内容は当時の文部省調査によると、「最近の学生の生活は以前に比べてかなりきびしく、実態はやりくり算段である」ということ、またそのような背景の中でも「教官の拠出による基金づくりでの学生に対する小口融資は全国の大学でもめづらしい」ということなどが書かれてありました。

その後平成9年2月14日、父兄ならびに保証人から学生後援会設立についての承諾、多数の賛同を得て、翌年1月24日設立準備世話人会、同年2月21日に第1回薬学部学生後援会（設立総会）が開かれたわけであります。このようにしてできた薬学部学生後援会は、現在までその基本目的を継承して次の活動を行っています。

- ①課外教育援助、②課外活動援助、③奨学資金援助、④広報活動、⑤緊急対策
- ①課外教育援助

主に薬剤師国家試験特別演習（国家試験対策

活動は現在も教務の先生方によって進行中)

薬学部ならびに和漢薬研究所のご理解とご協力により、国家試験対策を立ていただき、薬学ゼミナールによる集中講義や、1週間おきの模擬試験および国家試験ガイダンスを開催することで、国家試験に向けての緊張持続を図り、また模擬試験の結果の解析によって、受験生個々の進展を把握し個別指導を行っています。課外教育には相当な時間と費用がかかります。学生さんたちに一部自己負担（模試受験料等）をしていただいておりますが、残る差額分を学生後援会で補助させて頂いております。また、実習に関わる病院薬剤部への書籍代、卒業論文発表会における優秀論文に対して賞状や賞品の提供なども行っております。

#### ②課外活動援助

現在各団体からの申請書に基づいて、片寄りや不公平のないように薬学部学生の在籍数、大会の主管などの責務の大きさなどによって、優先順位をつけて配分額を調整して補助額を決めております。予算の都合上十分な援助とはいきませんが、21団体のほか、大学祭への補助、学生相談室への補助も行っております。

#### ③奨学資金援助

これは奨学金とは異なります。あくまで学生が一時的にお金が必要になったときに一回当たり8万円を限度として貸与するものです。全国で学生が親に無心でいき消費者金融に手を出して社会問題になったことを憂いて、直接学生たちと接する先生方の親心的制度であり、学生から相談を受けた先生又は学生委員が紹介する制度です。もちろん安易に貸与するのではなく、返済計画、保証人の依頼、借用書の製作をして提出してもらっています。奨学資金援助活動は、これまでにクラブ遠征、車検費用の捻出、就職活動、仕送り減額などに対して資金援助を行ってきました。最近の例では、実家焼失あるいは3年生より学内医学部編入、国家試験に向けての勉強集中によるアルバイト停止が貸与申し込みの理由でした。また、この奨学資金援助にかかる資金（原資）は全ての教職員会員の会費の積立の中から行われています。

#### ④広報活動

学生後援会総会資料および最新号の学園だよりをすべての会員の皆様にお送りしております。また有志の先生方によって本学薬学部のホームページに学生後援会用の欄が設けられています。ホームページが作成されインターネット上での学生後援会の案内や報告も行われるようになりました。これにより富山県から離れたところにお住まいのご父兄、保護者の皆様にも、できるだけ早く情報をお伝えできるようになったと思います。

ここ数年、大学祭開催期間に合わせて、父兄、保護者と薬学部の先生方との懇談会が開催されておりますが、広報活動の効果で年々ご参加下さるご父兄が増えて、前は約60人以上のご父兄にご参加いただきました。薬学部学生後援会にとりましては、より多くのご父兄、保護者の皆様の関心とご意見を聞かせて頂ける非常に意義のある機会だと思っております。

いままで述べてきた活動内容のほかに、学生の災害時に対して学生後援会の対応をどのようにするかなど、検討していかねばならない問題は山積みであります。

医療系総合大学として富山医科薬科大学が設立されてはや30年、教官と父兄、保護者による共同拠出でできた薬学部学生後援会はまだ8年……。

来年4月には薬剤師教育6年制化に伴う第一期生が入学してまいります。まだまだ不十分な体制の学生後援会ではありますが、これからも薬学部の教職員の先生方にご指導頂き学生後援会として、今、そして将来的に薬学部学生に何が必要か、何を援助できるかを考え、的確にそれを行える会として進化していくことを今後の目標にして努力していく所存です。

## 医学部同窓会

医学部同窓会長 高田 良久

つい先日開学二十周年を祝ったと思ったら、この度は三十周年記念である。過ぎた歳月と自

らに備わったものとを比べると、『光陰矢の如し』などという言葉の重みばかりを感じてしまう。

『人間五十年下天のうちをくらぶれば』、医学部同窓会も一期生の多くがそんな年齢にさしかかるようになってきた。

本会は1976年、一期生の入学と同時に準備され、1982年その卒業を機に正式発足した。

本会の現在の主な事業は以下である。

1. 総会・理事会等の開催
2. 同窓会名簿・同窓会報の発行と発送
3. 卒業記念品の贈呈と卒業祝賀会の開催（薬窓会と共同）
4. 退官教官への記念品の贈呈
5. 大学祭の後援
6. 富山医科薬科大学と関連病院長会議への出席・協賛
7. 「杉谷の森」合奏団への協賛

ほかに、母校図書館への図書寄贈や各種協賛事業、さらに「医学教育の評価と展望」（1987年、1992年）、「卒業生の就業状況調査」（1993年）などの調査事業や、4.に関連して医薬大祭記念講演会講演録「竹林に會す」出版（1995年）、開学二十周年記念シンポジウム「今、大学は何をなすべきか」の開催（1995年）、などを行ってきた。

こうした事業を数えながら、今昔の感に堪えないのは、昨今の医学部、医療を取り巻く環境の激変だろう。

2004年に導入された新医師臨床研修制度は、研修医の位置づけを明確にした一方で、従来の医師派遣体制の崩壊をももたらした。

私の在住する栃木県では、在京大学の医師需要の高まりで本県派遣医師が引き揚げられた。一方で、本県にある自治医大、獨協医大は主たる機能が栃木県の地域医療人材の養成ではない事情があり、地域は深刻な医師不足に見舞われた。現在、複数の病院で救急診療の縮小、病床減、病棟休止など病院機能に大きな影響がでている。

研修医制も従来の母校・大学中心から大都会の大規模病院志向で、地方大学では定員割れの

所もあると聞くから、母校の同窓生より研修先の同期生の方に親近感を覚えるかのような勢いである。

1980年第一回医薬大祭記念講演会に来演された江藤淳先生は、大東亜戦争敗戦後の占領政策がわが国の精神風土に多大な影響を与えたことを体系的に指摘された。

乱暴な言い方も知れないが、本国でも行われないような先鋭な個人中心主義の称揚、言い換えれば家族制度解体に象徴される帰属意識をもたぬことを価値とする考えは、個人を開放したかにみえて、実は家族なり母校なり帰属する集団で分けて背負っていた重荷を一切切個人に背負わせることにもなったのではないだろうか。

現在では欧米諸国は実質的に個人主義よりも社会主義を重視するかのような体制に見え、わが国はそれにも逆行しているように思えるのだ。

加えて個人情報保護法が先鋭な個人中心主義とセットになって、同窓会の基盤を大きく揺さぶっている。

本会は入学時準会員として入会する、というシステムをとっているが、かつて5名以内であった未入会者は最近では20名前後と増え、名簿に個人情報を載せるべきではない、との意見もでてきた。

しかし、概念としての「世界市民」は提唱できても、地域紛争や民族対立の現実がある以上、帰属の価値、いわば帰るところのある安心を考えないわけにはいかないだろう。

私事で恐縮だが、愚息の通う創立130余年になる私立の中高一貫校では、父母会まで学園振興に熱心である。経済的な問題も含め、学園の存立にそうした努力を必要とする事もあるだろうが、その学校に学ぶことのよさが、そうした熱心さの源泉となっているように思う。

医学科正会員2,289名、看護学科正会員614名、教官である特別会員95名、準会員850名からなる本会の使命は何か。戦後60年、振れ過ぎた振り子がまた戻ることを祈りながら、会員諸氏はもちろん、薬窓会、諸先生方、ならびに本学に関わるさまざまな方々のお力で、本会の意義を

見つめ、高めて行ければと思う。

## 薬学部同窓会

### —富山薬窓会の活動—

富山薬窓会長 松井 竹史

富山医科薬科大学が、昭和50年10月に医学部と薬学部を有する大学として創立され、今度開学三十周年記念式典・記念講演会を開催されましたこと、心からお慶び申し上げます。引き続き医学部同窓会と富山薬窓会の合同で記念祝賀会を開催しました。歴代の学長先生、教職員の方々、各界団体の代表者、そして大勢の同窓会の皆様にご出席を頂き、旧交を温め、将来を展望する有意義な会となりました。

振り返ってみますと、富山薬窓会は、明治26年(1893年)8月の共立薬学校の開校以来、百十数年の歴史と共に9,000名近い同窓会員を擁しております。母校は、明治30年(1897年)11月富山市立薬学校へ移管され、その後、市立薬業学校、富山県立薬業学校、富山県立薬学専門学校、官立薬学専門学校、そして昭和24年(1949年)5月、富山大学薬学部、昭和50年(1975年)10月、富山医科薬科大学薬学部、平成16年(2004年)10月、国立大学法人富山医科薬科大学薬学部と変遷発展してきました。今後、平成17年(2005年)10月、国立大学法人富山大学薬学部へさらなる発展が予定されています。

同窓生は日本国内のみならず、世界の各地で医療保健の向上、薬学の隆盛に力を発揮されています。校名は変遷しても、活躍の場は違って、富山において学んだ同志として、連帯感はず変わり、日本各都道府県に支部と、国外2支部を有し、「富山薬窓会」員として強い絆を持っております。

また、会員活躍の状況は会報「遠久朶」に毎年記載され、各支部報告、同級会報告等のほか、会員の叙勲、褒章、厚生労働大臣表彰、文部科学大臣表彰、知事表彰、その他受賞者の数の多

さからも窺い知ることが出来ます。

富山薬窓会は毎年、常任理事会総会を行い、本部活動、支部長報告等で、本部、支部の意思疎通を図っています。また、会報「遠久朶」を全会員に発送しています。富山薬窓会本部支部活動はホームページにも載っています。

会員名簿は、直近では2004年版を発行したところです。薬窓会後援事業として、「薬学研究科セミナー」「学内スポーツ大会助成」へ研究、健康両面で支援しています。創立75周年記念事業で寄贈した薬窓会記念会館の継続とみなされる現在の薬学研究資料館の整備充実を行ったので、薬窓会会員以外の方々も広く多くの活用をして下さい。

平成13年(2001年)21世紀最初の年に、薬学部玄関横記念碑の前に、富山薬学専門学校時代を偲ばせる記念碑の説明パネルを設置しました。官立富山薬学専門学校門碑、県立薬業専門学校門柱、松樹、大鷹岩と忠孝石の説明文が書いてあるので是非ともお読み下さい。

富山医科薬科大学は、医学と薬学の融合という斬新な理念の下に開学され、研究発展に、教育に、臨床治療に輝かしい成果を挙げられてきました。平成18年度から、薬学教育が6年制薬剤師養成コースと、4年+2年の薬学研究者養成コースに分かれて募集されることになりました。臨床現場の研修を受けた薬剤師が平成24年度から誕生することになります。医療の担い手として薬剤師教育に配慮頂くと共に、臨床現場も熟知した薬剤師の研究者養成も大切でありましょう。

平成17年10月1日から富山大学、高岡短大と統合され、新富山大学が発足します。国際化へ、また、地域社会へ、そして、学と官と産の連携、人づくり等の新展望を持って、新しい大学、国内有数の統合大学として発展されることを心から願っています。

薬窓会はその歴史と伝統のもと、会員の親睦をはかりつつ、併せて母校の発展に寄与出来れば幸いと考えています。



## 第2節 地域活動

## 公開講座

## 「健やかに生きるために」の年度別開講一覧

## 昭和60年度「薬と健康」 12.5時間 受講者76名

加須屋教授(医) 富山の成人病の現状  
 矢野 教授(医) 易しい成人病の話  
 森田 教授(薬) 薬用植物現地指導(大沢野町猿倉山周辺)  
 身近な薬草と健康管理について

大浦 教授(研) 和漢薬と代謝改善  
 寺澤 助教授(病) 頭痛と和漢薬

## 昭和61年度「薬と健康」 12時間 受講者54名

加須屋教授(医) 老人ボケについて  
 倉知 教授(医) 老人ボケについて  
 辻 教授(医) 老人のかかり易い病気 整形疾患  
 窪田 教授(医) 老人のかかり易い病気 眼科疾患  
 片山 教授(医) 老人のかかり易い病気 泌尿器疾患

吉崎 助教授(薬) (学内施設見学：薬用植物園)

荻田 教授(研) 老人と薬 和漢薬

難波 教授(研) (学内見学：薬学資料館)

中川 副薬剤部長(病) 老人と薬 現代薬

出来田看護部長(病) 老人の看護の実際(学内施設見学：病院)

## 昭和62年度「薬と健康」 12時間 受講者43名

篠山 教授(医) 老人と心臓病  
 諸橋 教授(医) 老人と皮膚  
 高久 教授(医) 老人と脳卒中  
 古田 教授(医) 最近の歯科治療 一いつまでも、おいしく食べられるように

木村 教授(薬) 薬の作用

吉崎 助教授(薬) (学内見学：薬用植物園)

難波 教授(研) 薬用資源をヒマラヤに訪ねて(学内見学：薬学資料館)

出来田看護部長(病) 老人看護の実際(学内見学：病院)

## 昭和63年度「薬と健康」 12時間 受講者36名

佐々木教授(医) 肝炎の予防と治療

水越 教授(医) 高齢者の難聴

飯田 助教授(医) 腎臓病の話

森田 教授(薬) 身近な薬草と2～3の漢方薬

小泉(徹)教授(薬) 薬のできるまで

堀越 教授(病) 薬に関する最近の話題

寺澤 助教授(病) 不安定愁訴と漢方薬

出来田看護部長(病) 老人看護の実際

## 平成元年度「健やかに生きるために」 11.5時間 受講者52名

篠山 教授(医) 心臓発作を防ぐために

櫻川 教授(医) AIDSとはなにか

吉崎 助教授(薬) 生活の中の薬草

小野寺助教授(薬) 健康と体力作りの運動処方

難波 教授(研) 健やかに食べよう

寺澤 教授(病) 若さを保つための和漢薬の知識

出来田看護部長(病) 臨床看護者の立場から施設見学(薬用植物園、薬学資料館、附属病院薬剤部)

## 平成2年度「健やかに生きるために」 11.5時間 受講者63名

矢野 教授(医) 栄養と健康

加藤(義)助教授(医) 骨と加齢

布施 助教授(医) 高齢者と排尿障害

森田 教授(薬) 身近な薬草について

小橋 教授(薬) 日本人の寿命

荻田 教授(研) においとあじ

齋藤 講師(病) こころとからだの健康

施設見学(薬用植物園、薬学資料館、病院放射線部)

平成3年度「健やかに生きるために」 12時間

受講者63名

鏡森 教授(医) ライフスタイルと成人病予防

高久 教授(医) 脳卒中の予防と対策

田中 助教授(医) 消化管(食道・胃・腸)の出血

吉崎 助教授(薬) 薬草の恩恵

渡邊 教授(研) 動物実験から見た「老化と和漢薬」

羽田 助教授(病) CTおよびMRI検査について

西田副看護部長(病) ささえあい生きる喜びを

施設見学 (薬用植物園、薬学資料館、病院放射線部)

平成4年度「健やかに生きるために」 12時間

受講者90名

渡邊 教授(医) 肝臓と病気

倉知 教授(医) 脳と精神活動—画像診断から—

窪田 教授(医) 眼の健康を守るために

新居 講師(医) 女性の後半生とホルモン

木村 教授(薬) 食べ物とくすり

森田 教授(薬) 身近な薬草の利用について

服部 教授(研) 東洋人の知恵

西田副看護部長(病) 大学病院医療のインフォメーション

平成5年度「健やかに生きるために」—がんとエイズ— 12時間 受講者81名

櫻川 教授(医) 後天性免疫不全症候群(エイズ)

北川 教授(医) 増え続ける肺がん

鏡森 教授(医) がんの免疫と予防

神郡 教授(医) がんと精神看護

田澤 助教授(医) 大腸癌の予防はできるのか

清水 助教授(薬) がんと伝承薬物

服部 教授(研) エイズのクスリ開発最前線

龍村 助教授(病) がんの治療法について

平成6年度「健やかに生きるために」—痛みとのつきあい— 16.5時間 受講者80名

辻 教授(医) 痛みと仲良く生きるコツ

井上 教授(医) 胸の痛み—狭心症か?—

高間 教授(医) 痛みとケア

遠藤 助教授(医) 頭痛・めまいとのつきあい方

新居 講師(医) 心配な痛みと心配ない痛み—痛みを正体を知ってかしくくいきる方法—

木村 教授(薬) 痛みと薬

清水 助教授(薬) 痛みにかかわりあいのある天然薬草

倉石 教授(研) 痛みと鎮痛の基礎

龍村 助教授(病) 癌の痛みとその対策

坂本 助手(病) 急性腹症—外科医から見た腹痛—

平成7年度「健やかに生きるために」—腎臓と病気— 14.2時間 受講者69名

小泉 教授(医) 腎臓の働きと尿毒症

稲葉 講師(病) 小児腎疾患の特徴

大角 講師(病) 糖尿病と腎臓

施設見学 薬用植物園

横澤 助教授(研) 腎疾患と和漢薬

高田 助教授(医) 内科的腎疾患の進行とその対策

宮原 助教授(薬) 腎臓と骨障害

老田副看護婦長(病) 慢性腎疾患のセルフケアと尿失禁の対処について

酒本 講師(病) 腎結石症—その治療の革命的变化について—

風間 講師(病) 腎臓に見られる泌尿器科的疾患

平成8年度「健やかに生きるために」—肝臓と病気— 12時間 受講者74名

高屋 教授(医) 肝臓の構造と機能

竹口 教授(薬) 肝臓における解毒作用と解毒ポンプ

高原 講師(病) アルコールと肝臓

門田 教授(研) 肝臓病と和漢薬

白木 教授(医) 肝炎を起こすウイルスについて

渡辺 教授(医) 肝炎、肝硬変、肝がん—症

## 状、診断と治療

- 明栄養管理室長(病) 肝臓病と食事療法  
坂本 助教授(医) 肝臓の手術
- 平成9年度「健やかに生きるために」** —脳と病  
気— 12時間 受講者85名  
小野 教授(医) 脳と心 —感情・記憶のメ  
カニズムとその老化—  
倉知 教授(医) 脳と心 —精神分裂病研究  
から—  
渡辺 教授(研) 老年期痴呆と和漢薬 —基  
礎研究から—  
寺澤 教授(医) 老人性痴呆症と漢方治療  
遠藤 助教授(医) 脳腫瘍 —早期発見と治  
療の進歩—  
渡辺 教授(医) 肝炎、肝硬変、肝がん —  
症状、診断と治療—  
高嶋 助手(医) 脳の病気に対する精神内科  
的アプローチ  
川崎 教授(医) 小脳と運動機能  
高久 教授(医) 脳卒中の外科治療
- 平成10年度「健やかに生きるために」** —心臓の  
病気— 12時間 受講者66名  
加須屋教授(医) 成人病の疫学 —心臓病を  
中心として—  
市田 講師(医) 小児の心臓病  
井上 教授(医) 成人の心臓病 —早期発見  
と治療—  
足立 教授(病) 心臓病と薬  
麻野井講師(病) 心臓病と運動  
三崎 教授(医) 身体に優しい冠動脈バイパ  
ス  
高田 助教授(医) 高血圧と心臓 —動脈硬  
化—  
浜崎 教授(研) 動脈硬化と食事  
高久 教授(医) 脳卒中の外科治療
- 平成11年度「健やかに生きるために」** —症状か  
ら見た消化器疾患— 15時間 受講者78名  
大谷 教授(医) 消化器とは —自分の身体  
を知る—  
渡辺 助教授(病) おなかにしこりが —画  
像診断—  
斉藤 助教授(医) おなかと背中が痛い —

## 膝疾患なんか怖くない—

- 塚田 教授(医) 眼が黄色い 一日帰り治療  
もできるようになった胆石  
症—  
田中 教授(医) 胃の病気とピロリ菌  
田澤 教授(医) 便に血が混じる —大腸が  
んと痔疾患—  
坂本 助教授(医) たべものがつかえる—食  
道がんが色素でわかる—  
渡辺 教授(医) お腹が張る —肝硬変—  
明栄養管理室長(病) 粥食はいいですか?  
—胃腸の弱い人、肝臓  
病の人—  
寺澤 教授(医) 便秘は病気? —漢方では  
こう考える—
- 平成12年度「健やかに生きるために」** —日常生  
活習慣と健康— 12時間 受講者51名  
鏡森 教授(医) 疾病構造の変遷  
谿 教授(研) 飲酒の楽しみと健康  
梶田 教授(医) 生活習慣と骨粗鬆症  
成瀬 教授(医) 塩分と血圧  
加須屋教授(医) 健康診断の意義とその生か  
し方  
成瀬 教授(医) 社会性と健康寿命  
浜崎 教授(研) 食生活と動脈硬化  
齋藤 教授(医) 女性と喫煙
- 平成13年度「健やかに生きるために」** —医療に  
おける科学と伝統、その変遷及び医療科学ト  
ピックス— 12時間 受講者 47名  
谿 教授(研) 養生の極意は「中を守る」  
こと  
鏡森 教授(医) ドイツのクナイプ自然療法  
にみる温泉と健康増進  
北島 教授(医) 「医療科学トピックス1」  
宇宙旅行から骨の健康を考  
える  
倉知 教授(医) 心を支える脳のメカニズム  
木村 教授(医) ポストゲノム時代の骨と関  
節の健康  
永山 教授(医) 社会構造の変化と家族の変  
容  
津田 教授(薬) 「医療科学トピックス2」ゲ

- ノム DNA の正体と医療  
 済木 教授(研) 「イライラ」すると「病気が悪く」なる
- 平成14年度「健やかに生きるために」** —感染症の話— 12時間 受講者54名  
 安岡 助教授(医) 血液で媒介する感染症  
 炭谷 助教授(医) 感染症から身を守るために  
 舟田 教授(医) 正しく対処すれば MRSA も恐くない  
 根本(信)教授(薬) 感染症とテーラメード治療  
 白木 教授(医) ウイルス感染症に関する最近の話  
 村口 教授(医) 感染症と免疫について  
 丸山 講師(医) 肺結核について  
 檜垣 助教授(医) 皮膚の感染症について
- 平成15年度「健やかに生きるために」** —高齢者の疾患— 12時間 受講者41名  
 成瀬 教授(医) 高齢化社会における病気について  
 三崎 教授(医) あなたに胸痛がおこったら—身体に優しい心臓血管手術—  
 遠藤 教授(医) 知っているのと得する脳卒中診療のまめ知識  
 布施 教授(医) 前立腺の病気について  
 早坂 教授(医) 高齢者の白内障・緑内障・黄斑変性  
 足立 教授(病) 加齢による変化と服薬のポイント  
 浜崎 教授(和) 魚の油は健康によいとされています。では、リノール酸は？  
 井上 教授(医) 高血圧とどうつきあうか？
- 平成16年度「健やかに生きるために」** —はじまった21世紀の医療— 12時間 受講者34名  
 村口 教授(医) 「動き出した抗体医療」エイズの抗体治療は可能か  
 畑中 教授(薬) 「新薬登場の背景」インフルエンザウィルスの弱点とは
- 稲寺 教授(医) 「身近にひそむ環境ホルモン」ヒトへの影響と必要な対応策  
 日高 講師(医) 「ジェンダースペシフィック・メディスン」女性の特性を考慮した医療—女性の特性、ホルモン変動やライフステージを考慮した医療が必要とされている—  
 武田 教授(医) 「薬の効き目と薬物動態」薬物トランスポーターとはなに？  
 橋本 教授(薬) 「テラー・メイド医療の時代」個人の体質に合った薬剤の選択と服用量の決定  
 西条 教授(医) 「健やかに生きる脳のしくみ」脳・神経系疾患を予防するには  
 鈴木 助教授(医) 「健やかな老いと痴呆」アルツハイマー病の理解と治療戦略
- 平成17年度「健やかに生きるために」** —災害・救急に備えて：講義と実技— 受講者67名  
 滝澤 教授(医) 生活にひそむ危険  
 奥寺 教授(医) 救急医学の基礎と実技  
 ①「基本的心肺蘇生法処置の確認」  
 ②「AEDの知識・シナリオに対応したAED使用実技」  
 ③「AED使用方法の指導法」  
 ④「知識と実技の確認試験」  
 住吉 講師(医) 災害・事故後の精神的諸問題  
 倉石 教授(薬) 災害に備えるべき医薬品は  
 小松 教授(和) 「和漢薬の安全な利用法」漢方薬・健康食品を理解して使う

## リカレント教育

## リカレント教育学習コース開設一覧（富山県委託事業）

平成4年度「薬学基礎」	32時間 受講者30人
現代薬学の特徴	狐塚薬学部長（教授）
薬用植物と生薬	吉崎薬学部助教授
光学活性医薬品の入手法、分析法	小泉徹薬学部教授
微量分離分析法の二、三の試み	谷村薬学部教授
胃と腸	竹口薬学部教授
薬としての生理活性物質	中川薬学部教授
骨代謝と薬	宮原薬学部助教授
腸内菌代謝	小橋薬学部教授
抗生物質の作用	西薬学部教授
薬の効き方の遺伝学	荻田和漢薬研究所教授
薬のレセプター	木村薬学部教授
からだの中の薬の働き	小泉保薬学部教授
脳に作用する薬	渡邊和漢薬研究所教授
医療と界面活性剤	上野薬学部教授
市販製剤の評価	堀越附属病院薬剤部長（教授）
薬の歴史	難波和漢薬研究所教授
平成5年度「創薬科学」	30時間 受講者31人
1コース「最近の分離分析、構造分析」	
液体クロマトグラフィによる分離と分析	谷村薬学部教授
活性天然物質の分離と構造	清水薬学部助教授
構造分析の進歩	菊地和漢薬研究所教授
一核磁気共鳴	
2コース「最近の創薬合成」	
活性ビタミンD	吉井薬学部教授
立体制御合成と創薬	小泉徹薬学部教授
有機合成計画法	百瀬薬学部教授
3コース「バイオテクノロジーと薬学」	
消化管エコロジー	小橋薬学部教授

植物における遺伝子操作の利用  
西薬学部教授

和漢薬とバイオテクノロジー  
服部和漢薬研究所教授

## 4コース「疾病と薬学」

炎症と抗炎症薬  
中川薬学部教授

糖尿病態とインスリンの薬理  
木村薬学部教授

消化器潰瘍と治療薬  
竹口薬学部教授

うつ病とその薬物療法  
渡邊和漢薬研究所教授

痛みと鎮痛薬  
倉石和漢薬研究所教授

## 5コース「最近の薬剤・製剤学」

市販製剤の評価（その2）  
堀越附属病院薬剤部長（教授）

リボソームとDDS  
上野薬学部教授

薬動学・薬力学  
小泉保薬学部教授

## 平成6年度「薬学における情報処理技術の実際」

33時間20分 受講者24人

基本操作  
五味実験実習機器センター助教授

ワードプロセッサ  
五味実験実習機器センター助教授

実験データの取り込み  
森薬学部助手

化学構造式の作成  
高畑薬学部助教授

ケミカルアブストラクトにおける文献検索  
武田薬学部講師

分子モデル  
武田薬学部講師

遺伝子解析  
磯部富山大学工学部助教授

統計、検定  
木村薬学部助教授

図、表作成  
篠田薬学部助手

画像処理・まとめ  
森井薬学部講師

平成7年度「和漢薬を暮らしに生かす」 30時間  
受講者15人

正倉院の薬物は和漢薬か  
難波和漢薬研究所教授

和漢薬製剤に関する諸問題  
堀越附属病院教授

和漢薬の中の毒  
松本和漢薬研究所助教

	授
なぜ葛根湯は風邪に効くのか	白木医学部教授
飲んだ和漢薬の行方は	服部和漢薬研究所教授
消化器系疾患と和漢薬	嶋田医学部助手
カニの甲羅（キチン）は癌に効くか	済木和漢薬研究所教授
アトピー性皮膚炎の和漢薬治療	関附属病院講師
和漢薬で痛みが治まるか	倉石和漢薬研究所教授
ベクチンと癌	田澤医学部教授
病める腎臓を和漢薬で治せるか	横澤和漢薬研究所助教
糖尿病とは	大角附属病院講師
和漢薬の中の石鹼様成分（サポニン）	角田和漢薬研究所教授
自律神経失調症	松田医学部助教授
腹8分目で長生きするわけ	渡邊和漢薬研究所教授
糖尿病と和漢薬	木村薬学部教授
和漢薬と老年痴呆	野村北海道大学教授
慢性関節リウマチと和漢薬	高橋附属病院助手
心臓の病気	麻野井附属病院講師
薬膳と食文化を考える	難波和漢薬研究所教授
<b>平成8年度「和漢薬に未来はあるか」</b> 30時間40分 受講者19人	
富山の薬の現状と将来	植村富山県薬務食品課長
漢方治療一症と方剤	伊藤医学部助教授
ルネッサンスを迎えた伝統医薬品	齋藤東京大学薬学部教授
水毒について	新谷医学部助手
漢方薬の服薬指導	堀越附属病院教授
パーキンソン病とその治療	檜山檜山医院医師
漢方生薬の製剤化と	山本ツムラ中央研究所

品質管理	所員
肝臓の慢性疾患	樋口附属病院講師
天山山脈の薬用植物	難波和漢薬研究所教授
グリチルリチンと肝炎	白木医学部教授
漢方生薬の品質管理	小松和漢薬研究所助手
民族薬物資料館見学	小松和漢薬研究所助手
薬学部薬用植物園見学	有澤薬学部助教授
免疫応答性（遺伝的体質）は変化するか	中島和漢薬研究所助教
不妊と和漢薬	副田医学部助手
痒みとその治療薬	長澤和漢薬研究所助手
腰痛について	松井医学部助教授
生体糖鎖と生理活性	畑中和漢薬研究所助教
和漢薬と腸内細菌	服部和漢薬研究所教授
薬用人参の薬理—高麗人参からベトナム人参まで—	渡邊和漢薬研究所教授
<b>平成9年度「DNAとバイオテクノロジー」</b> 30時間 受講者25人	
DNA	
DNA調整、制限酵素による消化、アガロースゲル電気泳動	平賀医学部教授、森ヶ崎医学部助手
ラット血清アルブミン cDNA の塩基配列決定	古谷田医学部助教授
RNA	
RNAの調整、ホルムアルデヒド変性、アガロースゲル電気泳動、RT-PCR	浅野遺伝子実験施設助教
ポリアクリルアミド電気泳動組換え DNA の作製、大腸菌の形質転換、color selection による形質転換	日比野遺伝子実験施設助手
	森ヶ崎医学部助手、小川医学部助教授
	古谷田医学部助教授
	浅野遺伝子実験施設教授
	日比野遺伝子実験施設助手

大腸菌の識別方法		伝子導入と解析技術	日比野医学部助教授
細胞培養への遺伝子導入		RNAを細胞に導入する	
培養細胞への遺伝子導入(形質転換)形質	日比野遺伝子実験施設助手	アフリカツメガエル卵母細胞への遺伝子導入	酒井薬学部助教授 浅野遺伝子実験施設助教授
転換細胞のルシフェラーゼ活性の検出	浅野遺伝子実験施設助教授 小川医学部助教授	医療中の遺伝子技術	
平成10年度「DNAとバイオテクノロジー」		核移植技術とクローン動物の作成	村田和漢薬研究所助手
30時間 受講者25人		日常診断における遺伝子検査	金兼医学部助手
DNAを目で見る		産婦人科領域における遺伝子診断の現状と可能性	種部医学部助手
染色体の観察・ゲノム(染色体由来の)DNAの調整	浅野遺伝子実験施設助教授 日比野遺伝子実験施設助手	平成12年度「遺伝子治療最近の進歩」	30時間
DNAを増幅する		受講者23人	
ヒトDNAの特定部位のPCRによる増幅	定金薬学部助手、岩波薬学部助手	遺伝子と創薬	倉石薬学部教授 河野薬学部教授 今中薬学部教授
DNAの構造を決定する		和漢薬資源と遺伝子	渡邊和漢薬研究所教授(所長) 三川県国際健康プラザ所長
増幅されたPCR産物の塩基配列の決定	柴田薬学部助手、定金薬学部助手	遺伝子診断と電子治療	白木医学部教授 宮脇医学部教授 斉藤医学部教授
DNAを細胞に導入する		生活習慣病と遺伝子	小方医学部助教授 小林病院長 井上医学部教授 許医学部教授 渡辺医学部教授
DNAを取り出す		遺伝子解析と社会倫理	盛永薬学部助教授
プラスミドDNAの調整、制限酵素消化	浅野遺伝子実験施設助教授 日比野遺伝子実験施設助手	遺伝子実験施設見学	五味助教授
平成11年度「DNAとバイオテクノロジー」	30時間 受講者15人		
DNAを増幅して遺伝子異常を検出する			
PCRによるポンプ遺伝子の増幅と変異の検出	浅野遺伝子実験施設助教授 日比野医学部助教授		
遺伝子情報を解析する			
インターネットによる遺伝子情報の検索と解析	日比野医学部助教授 村田和漢薬研究所助手		
DNAを細胞に導入する			
哺乳動物細胞への遺	田淵(明)薬学部助手		

## 大学等地域開放特別事業

小中学生及びその保護者を対象に、大学等が有する高度な研究・実験施設や附属農場・演習林等を活用し、対象者が日常体験できない多彩な活動の機会を提供する。

### 平成11年度

#### 遺伝子研究への招待

開催日：平成11年11月28日 浅野遺伝子実験  
 参加者：中学生13名、教諭 施設助教授  
 4名 白木医学部教授  
 内容：大学で使用してい (施設長)  
 る器具、機材、試薬 田淵遺伝子実験  
 を使ったの遺伝子 施設助手  
 実験体験 五味実験実習機  
 器センター助教  
 授  
 村口医学部教授

### 平成12年度

#### 遺伝子研究への招待

開催日：平成12年8月7日、 浅野遺伝子実験  
 8日 施設助教授  
 参加者：中学生29名、保護 白木医学部教授  
 者3名 (施設長)  
 内容：大学で使用してい 田淵遺伝子実験  
 る器具、機材、試 施設助手  
 薬を使ったの遺伝 五味実験実習機  
 子実験体験 器センター助教  
 授  
 北村遺伝子実験  
 施設技術補佐員

### 平成13年度

#### 最先端科学の世界を

開催日：平成13年10月27日 五味実験実習機  
 参加者：中学生24名、保護 器センター助教  
 者1名 授  
 内容：果物で電気が人 森腰実験実習機  
 間が電池に 器センター総括  
 超低音の神秘—超 技術官  
 伝導の不思議な世 川原実験実習機

界— 器センター主任  
 電子顕微鏡で見る 技術官  
 ミクロな世界他 吉井実験実習機  
 器センター先任  
 技術官  
 恒田実験実習機  
 器センター先任  
 技術官

### 平成14年度

#### ときめき体感「不思議から始まるサイエンス」

開催日：平成14年11月9日 五味実験実習機  
 参加者：中学生21名 器センター助教  
 内容：インターネットで 授  
 科学する 森腰実験実習機  
 電子顕微鏡で見る 器センター総括  
 ミクロの世界 技術官  
 大型機器で漢方薬 川原実験実習機  
 を分析しよう 器センター主任  
 マイナス200℃の 技術官  
 世界を体験しよう 吉井実験実習機  
 器センター先任  
 技術官  
 恒田実験実習機  
 器センター先任  
 技術官  
 澤谷実験実習機  
 器センター技術  
 官

### 平成15年度

#### ときめき体感「不思議から始まるサイエンス」

開催日：平成15年11月15日 五味実験実習機  
 (土) 器センター助教  
 参加者：中学生25名 授  
 内容：電子顕微鏡で見る 森腰実験実習機  
 ミクロの世界 器センター総括  
 大型機器で漢方薬 技術官  
 を分析してみよう 川原実験実習機  
 ノーベル化学賞の 器センター主任  
 世界に触れる 技術官  
 -196℃の世界を 吉井実験実習機  
 体験しよう 器センター先任  
 超電導を体験して 技術官



みよう 恒田実験実習機  
器センター先任  
技術官  
澤谷実験実習機  
器センター技術  
官

#### 平成16年度

##### 「富山発 バイオサイエンス21」

開催日：平成16年7月24日 生命科学先端研  
(土) 究センター職員  
参加者：小学生コース：小 五味分子・構造  
学生・保護者45名 解析分野助教授  
中学生コース：18 他  
名 山本動物資源開  
高校生コース：12 発分野助教授他  
名 田淵ゲノム機能  
内 容：小学生コース：親 解析分野助教授  
子で学ぶ小動物の 他  
飼い方 庄司放射線生物  
中学生コース：液 解析分野助教授  
体窒素でおもしろ 他  
実験：自然放射線  
を見る  
高校生コース：遺  
伝子研究への招待

#### 平成17年度

##### 「富山発 バイオサイエンス21—身近な生命科学研究—」(SPP 教育連携講座)

開催日：平成17年8月22日 生命科学先端研  
(月) 究センター職員  
参加者：新湊市立奈古中学 五味分子・構造  
3年生 56名 解析分野助教授  
内 容：生命の神秘 他  
顕微鏡の不思議 山本動物資源開  
遺伝子研究の招待 発分野助教授他  
自然放射線の画像 田淵ゲノム機能  
化・視覚化 解析分野助教授  
他  
庄司放射線生物  
解析分野助教授  
他

